

角笛会会概

発 行 所

日本大学生物資源科学部 校友会 角笛会

〒252-0880 藤沢市亀井野1866 0466-84-3634

ホームページ:http://www.tsunobue.org/



巻頭のご挨拶

角笛会会長 鳥 海 弘 (昭和50年卒)

新型コロナウイルス感染症は、昨年末から新たな変異株であるオミクロン株や、さらなる変異株が出現し、第7波が到来し収束が明確に見通せない事態が続いています。国は「Postコロナ」から「Withコロナ」へと舵を切り、社会では新しい生活様式が定着しつつあります。

角笛会報も第38号を発刊するに至りました。昨年秋に37号を発刊してから早や1年が過ぎました。しかしながら本会活動は、第35号が発刊された2019年11月以降、思うような活動ができず停滞してしまいました。新型コロナウイルス感染症が拡大蔓延した影響で、3月に予定されていた127名への学位記等伝達式、卒業生謝恩会等への出席ができず、若い年代の卒業生に校友会や獣医師会について話をする好機でもありましたが、出席が叶わなかったことは残念でした。

今年も4月23日には新入生130名を対象に基礎獣医学演習として「角笛会とその役割について」の講演する機会を得ました。講演資料は角笛会・前会長の故中川秀樹先生が作成されたオリジナルを基に、私の考察を付与した90分間の内容です。資料の作成のために調査を進めていくと、獣医師の歴史、日本大学獣医学科や角笛会について改めて歴史の深さを再認識し、さらに本会を発展・活性化させなければならないと痛感した次第です。

その新入生を迎えての歓迎会が5月7日には藤沢市の鵠沼海岸にて地引網が開催され、角笛会が提供したオリジナル Tシャツを着用した多くの学生や教員が参加され楽しい時間を過ごし交流を深めました。

コロナ禍の影響で社会では、急速にWebを利用した講習会や会議が普及いたしましたが、対面での会議、総会・獣医学会等の開催には同窓同士の生の情報交流という大きなメリットがありますので、安全な対面での開催を目指し準備をしてきましたが、社会情勢から幹事会、角笛会定期総会は電磁的記録あるいは書面での意思表示によるみなし決議による方法に変更しての開催となりました。

本年8月5日に、紙上にて令和4年度角笛会総会を開催し、8月18日までご意見をいただき、令和3年度事業活動および会計収支報告、令和4年度事業活動および予算案等を上程し、書面にて審議され第1号~4号議案のすべてが全会一致で可決承認されました。第4号議案では新役員が承認され、新事務局長に岡林堅先生が就任され、本会の事務を担当していただくことになりました。

角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、平野孝昭氏(熊本県)に賞状と記念品が授与されました。令和元年の総会にて支部役員以外にクラス会幹事、本部事務局経験者も推薦対象等の功労者も対象となっておりますが、今年度は該当がありませんでした。角笛会総会が紙上開催となり日本大学獣医学会も中止となったため、学生向けの動物病院就職説明会も中止となりました。例年、角笛会総会と日本大学獣医学会が同日開催の恒例となってはおりますが、本質は別組織です。本来であれば両者が一つの大きな組織となり拡充させることができれば、さらに充実した活動が出来るのではないかと考える次第です。

また第19回日本大学医療系同窓・校友学術講演会等の主要事業も延期となりました。総合大学である本学の医療系の同窓が集まり共通のテーマを追求することは非常に素晴らしいことであり、総合大学である本学であればこそ出来得ることです。

現在、全国には6,000~7,000名の角笛会会員が在籍していると推測されており、多くの会員が各分野でご活躍いただいております。その活躍に対し慶事が続きました。令和3年11月3日に、月瀬東名誉教授に対し「瑞宝小綬章」の叙勲受章の慶事の報がもたらされました。この慶事に対しまして衷心よりお祝い申し上げます。また酒井健夫名誉教授が7月1日より日本大学学長に就任されました。先生の実行力を持って本学の改革に期待するところです。

角笛会は本部と都道府県毎に支部があり、本部は準会員支援事業の他にも幅広い活動をしております。毎年会報を発刊し大学の近況、全国の校友の動向、クラス会等の情報を発信しております。会員からの情報は本会HPを通してお知らせしています。ご要望があれば本部にご連絡ください。名簿の維持管理の目的で角笛会同期会開催に際し、同期会名簿の提出をもって1万円の補助をすることになっておりますので積極的に利用してください。来春からの本学部の学科再編により生物資源科学部校友会の分会も再編されますが、本角笛会は長い歴史のまま継続されます。角笛会は単なる校友会ではなく獣医師として社会貢献する場でもあります。本学獣医学科の卒業生は誰しもが角笛会会員であります。現在、角笛会で活動されていない卒業生の皆様には世代を越えて校友と触れ合い、社会貢献する活動や次世代を担う在校生との交流を共に致しませんか。本学の獣医学科から獣医学部への移行のためにも、特に若い世代の卒業生が角笛会の一員として活動され、組織の活性化を図っていただくことをお願いすると共に、心より皆様の参加をお待ちしております。

11月11日(金)~13日(日)に福岡(ヒルトン福岡シーホーク)にてFAVA 21th大会並びに日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催されました。初日(11日)に「ソラリア西鉄ホテル福岡」を会場として「大角笛会」と称して交流会が開催され、多くの会員の先生方のご参加がありました。



学科主任を拝命いたしております61年度卒の森友です。会長の鳥海 弘先生を始め角笛会の先生方には、 日頃より獣医学科の学生教育、研究活動にご支援とご協力を賜り、誠にありがたく存じております。学科教員を代表して厚くお礼を申し上げます。

さて、当獣医学科は2022年3月に127名の卒業生を

送り出しました。そのうちの125名が獣医師国家試験に臨み、115名が合格し、合格率は92.0%と全国平均88.6%を上回りました。本年も多くの獣医師を社会に送り出し、新卒生は既にそれぞれの就職先で活躍を始めております。また、4月には130(男53、女77)名の新入生を迎え、現在の在籍者数は794(男342、女452)名となりました。

今年3月は、獣医生理学研究室の金山 喜一教授、獣医皮膚病学研究室の加納 塁准教授、獣医学科事務室の田崎 成美実習助手が退職されました。一方で、今年4月には、獣医毒性学研究室が新設され、橋本 統教授をお迎えしました。また、獣医消化器病学研究室に阪本 裕美専任講師、獣医放射線学研究室に谷 浩由輝助教をお迎えしました。また、分子生物学研究室の成田 貴則先生、獣医病理学研究室の近藤 広孝先生および獣医公衆衛生学研究室の佐藤 真伍先生が准教授に昇格されました。

今年度は、新型コロナの影響も徐々になくなりつつあります。講義・実習は、ほぼ以前どおり行えるようになって来ました。また、クラブ活動も徐々に再開されるようになり、11月の学園祭は、制限はあるものの以前のように行われる予定です。学生達にとってはもの足りない日々が続いていましたが、少しずつ活気が戻って来ました。

生物資源科学部においては受験者数が暫減する中、令和2年度に"今後とも選ばれ続けられる学部として、既存の学科の枠組みを越えた改革が必要"との方針が示され、令和5年度には、既存の学科が廃止され、新たな多くの学科が新設されます(詳しくは日本大学生物資源科学部ホームページを参照ください)。今回の改組において、獣医学科の枠組みは変更ありませんが、姉妹学科とも言える獣医保健看護学科が新設されます。この学科は、国家資格となる愛玩動物看護師の取得を目的としたものですが、獣医学科の教員の多くが獣医保健看護学科の教育にも携わることになります。今後、獣医学科としても学部改革に積極的に関与することはもちろんですが、"資格取得を目的とした6年生教育を行う学科"としての立場も理解していただかねばと思っております。

今回は、大学や獣医学教育の近況についてご紹介を致しましたが、何事においても、当獣医学科の教員だけで成し遂 げることはできません。角笛会の先生方との交流を深め、折に触れご意見を頂戴し、それらを生かしながら、酒井健夫 学長、丸山総一学部長の下、教員一丸となって、よりよい教育・研究の環境作りを推進致したいと思います。

角笛会の皆様には一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますと共にご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

令和4年度 角笛会総会・日本大学獣医学会 合同開催 および角笛会主催 動物病院就職説明会の中止

事務局 大野 真美子 (平成20年卒)

令和4年度角笛会総会ならびに日本大学獣医学会は、新型コロナウイルス感染症の収束がみられないことから、角笛会総会については紙上開催とし、獣医学会は開催を中止することといたしました。

また、同日に開催予定であった獣医学科学生(準会員)のための動物病院就職説明会についても、同様に中止することといたしました。



令和4年度角笛会総会(紙上総会)



事務局 大野 真美子(平成20年卒)

令和4年8月5日に、紙上にて令和4年度角笛会総会を開催し、8月18日までご意見をいただきました。令和3年度事業活動および会計収支報告、令和4年度事業活動および予算案等が審議され、承認されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、平野孝昭氏(熊本県)に賞状と記念品が授与されました。



令和4~5年度 角笛会役員

会長 (1名)・副会長 (3名)・常任幹事 (10~15名)・監事 (2名)



会長

鳥海 弘(神奈川)

副会長

井上 亮一(神奈川)、山田 武喜(東京)、渋谷 久(獣医病理学)

常任幹事

北澤 浩一(神奈川)、羽原 弦史(東京)、直井 昌之(埼玉・新規)、種子島貢司(千葉・新規)、

小林 豊和(東京・新規)、上野 弘道(東京・新規)、丸山 総一(生物資源科学部長・獣医公衆衛生学)、

森友 忠昭(獣医学科主任・比較免疫学)、鯉江 洋(獣医生理学・新規)、伊藤 琢也(獣医衛生学)

枝村 一弥(獣医外科学・新規)

監事

難波 信一(神奈川・新規)、佐藤 雪太(実験動物学)

顧問(新規)

幅田 功、津曲 茂久、鎌田 寛

事務局

岡林 堅(事務局長)、大野真美子(企画広報)、高橋 朋子(企画渉外・新規)

総会資料

令和3年度 一般会計収支決算報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)

	科 目	予算額	決算額	差 異	備考
1.	本部会費	1,200,000	866,000	△ 334,000	各支部より866名×1,000円
2.	準会員費	2,400,000	2,595,310	195,310	学部校友会
3.	雑収入	46	3	△ 43	預金利子、その他
4.	前年度繰越額	2,439,954	2,439,954	0	令和2年度分
収	'入合計 (A)	6,040,000	5,901,267	△ 138,733	

支出の部 (単位:円)

				() () /
科目	予算額	決算額	差 異	備考
1. 経常費	1,560,000	555,751	1,004,249	
(1) 会合費	10,000	0	10,000	会議等
(2) 交際費	300,000	1,000	299,000	支部総会祝い金・慶弔費・
				謝礼等
(3) 旅費交通費	500,000	0	500,000	支部総会旅費等
(4) 通信運搬費	50,000	65,729	△ 15,729	通信料・郵送料
(5)事務局運営費	700,000	489,022	210,978	給与、消耗品等
2. 会報費	600,000	492,250	107,750	会報37号
3. 名簿管理費	200,000	118,800	81,200	業務委託費等
4. 準会員支援費	1,600,000	693,620	906,380	新入生・卒業生記念品・
				就職説明会等
5. 褒賞費	200,000	28,050	171,950	功労賞
6. 学会補助費	0	0	0	
7. 医療系校友会補助費	130,000	0	130,000	開催中止
8. 組織拡充費	80,000	47,740	32,260	ホームページ管理等
9. 特別会計 I	0	0	0	名簿作成繰入金
10.特別会計Ⅱ	200,000	200,000	0	将来事業繰入金
11.特別会計Ⅲ	0	0	0	角笛会学生支援基金
12. 予備費	1,470,000	0	1,470,000	
支出合計(B)	6,040,000	2,136,211	3,903,789	

令和3年度次期繰越収支差額(C)=(A)-(B)

3,765,056円

令和3年度 特別会計 [収支決算報告書 【名簿会計】

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)

	科目	予算額	決算額	差	異	備考
1	. 名簿作成繰入金	0	0		0	一般会計より
2	. 雑収入	9	18		9	預金利子等
3	. 前年度繰越額	3,048,051	3,048,051		0	
	収入合計(A)	3,048,060	3,048,069		9	

支出の部 (単位:円)

	科目	予算額	決算額	差 異	備考
1.	名簿作成積立金	3,048,069	0	3,048,069	
2.	雑支出	0	770	△ 770	郵便口座への振り込み手数料
	支出合計 (B)	3,048,069	770	3,047,299	

令和3年度次期繰越収支差額(C)=(A)-(B)

3,047,299 円

収入の部

2. 雑収入

3. 繰越額

支出の部

科 目

1. 角笛会学生支援基金

収入合計(A)

科目

1. 角笛会学生支援基金

支出合計(B)

(単位:円)

(単位:円)

1,600,000 円

(単位:円)

備考

備考

令和3年度 特別会計 Ⅱ 収支決算報告書【将来事業資金】

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)

	科目	予算額	決算額	差 異	備考
1.	将来事業繰入金	200,000	200,000	0	一般会計より
2.	ANMEC 研究助成金*	0	0	0	一般会計より
3.	雑収入	7	20	13	預金利子等
4.	繰越額	1,856,023	1,856,023	0	
	収入合計(A)	2,056,030	2,056,043	13	

^{*} 今年度は休止

支出の部 (単位:円)

	科目	予算額	決算額	差 異	備考
1.	将来事業積立金	2,056,043	0	2,056,043	次回式典及び記念誌作成のための積立
2.	ANMEC研究助成金*	0	0	0	7とめ シ 州長立
3.	予備費	0	770	△ 770	郵便口座への振り込み手数料
	支出合計 (B)	2,056,043	770	2,055,273	

^{*} 今年度は休止

令和3年度次期繰越収支差額(C)=(A)-(B)

2,055,273 円

令和4年度 特別会計 [予算【名簿会計】

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

令和3年度 特別会計Ⅲ収支決算報告書【支援基金】 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

予算額 決算額 差 異

決算額

0

0

0

0

0

0

0

0

0 (備考:特別会計Ⅲの雑収入は特別会計Ⅱの雑収入内に含まれる。)

差 異

0

1,600,000 1,600,000

1,600,000 1,600,000

予算額

令和3年度次期繰越収支差額(C)=(A)-(B)

0

収入の部

科目	予算額 (B)	前年度 予算額 (A)	前年度決算額	前年度予算 との比較 (A)ー(B)	備考
1. 名簿作成繰入金	0	0	0	0	一般会計より
2. 雑収入	1	9	18	△ 8	預金利子等
3. 繰越額	3,047,299	3,048,051	3,048,051	△ 752	
収入予算合計	3,047,300	3,048,060	3,048,069	△ 760	

支出の部	(単位:円)
------	--------

	科目	予算額 前年度 (B) 予算額 (A)		前年度決算額	前年度予算 との比較 (A)ー(B)	備考
1.	名簿作成積立金	3,047,300	3,048,060	0	△ 760	
2.	雑支出	0	0	770	0	郵便口座への振り込み手数料
支	出予算合計	3,047,300	3,048,060	770	△ 760	

令和4年度 一般会計予算

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)

	科目	予算額 (B)	前年度 予算額 (A)	前年度決算額	前年度予算 との比較 (A)ー(B)	備考
1.	本部会費	1,200,000	1,200,000	866,000	0	1,200名×@1,000円
2.	準会員費	2,400,000	2,400,000	2,595,310	0	学部校友会
3.	雑収入	4	46	3	△ 42	預金利子
4.	前年度繰越額	3,765,056	2,439,954	2,439,954	1,325,102	
収	入合計	7,365,060	6,040,000	5,901,267	1,325,060	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額 (B)	前年度 予算額 (A)	前年度決算額	前年度予算 との比較 (A)ー(B)	備考
1. 経常費	2,060,000	1,560,000	555,751	500,000	
(1) 会合費	10,000	10,000	0	0	会議等
(2) 交際費	300,000	300,000	1,000	0	支部総会祝い金・ 慶弔費・謝礼等
(3) 旅費交通費	1,000,000	500,000	0	500,000	支部総会等旅費
(4)通信運搬費	50,000	50,000	65,729	0	通信
(5) 事務局運営費	700,000	700,000	489,022	0	給与、消耗品等
2. 会報費	600,000	600,000	492,250	0	会報38号
3. 名簿管理費	200,000	200,000	118,800	0	業務委託等
4. 準会員支援費	1,600,000	1,600,000	693,620	0	新入卒業生記念品、 懇親会招待他*
5. 褒賞費	300,000	200,000	28,050	100,000	功労賞
6. 学会補助費	0	0	0	0	第58回日本大 獣医学会**
7. 医療系校友会 補助費	130,000	130,000	0	0	第19回日本大学医 療系同窓·校友会
8. 組織拡充費	80,000	80,000	47,740	0	ホームページ管理等
9. 特別会計 I	0	0	0	0	名簿作成繰入金
10. 特別会計Ⅱ	500,000	200,000	200,000	300,000	将来事業繰入金、 ANMEC研究助成金
11. 特別会計Ⅲ	0	0	0	0	角笛会学生支援基金
12. 予備費	1,895,060	1,470,000	0	425,060	
支出合計	7,365,060	6,040,000	2,136,211	1,325,060	

*就職支援活動費を含む

(単位:円)

令和4年度 特別会計Ⅱ予算【将来事業資金】

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)

	科目	予算額 (B)	前年度 予算額 (A)	前年度決算額	前年度予算 との比較 (A)-(B)	備考
1.	将来事業積立金	500,000	200,000	200,000	300,000	一般会計より
2.	ANMEC研究助成金*	0	0	0	0	一般会計より
3.	雑収入	7	7	20	0	預金利子等
4.	繰越額	2,055,273	1,856,023	1,856,023	199,250	
収	入予算合計	2,555,280	2,056,030	2,056,043	499,250	

^{*} 今年度は休止

支出の部 (単位:円)

科目	予算額 (B)	前年度 予算額 (A)	前年度決算額	前年度予算 との比較 (A)ー(B)	備考
1. 将来事業積立金	2,555,280	2,056,030	0	499,250	次回式典及び記 念誌作成の為の 積立
2. ANMEC研究助成金*	0	0	0	0	
3. 予備費	0	0	770	0	郵便口座への振り込み手数料
支出合計	2,555,280	2,056,030	770	499,250	

^{*} 今年度は休止

令和4年度特別会計Ⅲ予算【支援基金】

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

収入の部 (単位:円)

	科目	予算額 (B)	前年度 予算額 (A)	前年度決算額	前年度予算 との比較 (A)ー(B)	備考
1. 角笛	会学生支援基金	0	0	0	0	
2. 雑収	入	0	0	0	0	
3. 繰越	額	1,600,000	1,600,000	1,600,000	0	
収入予算	算合計	1,600,000	1,600,000	1,600,000	0	

支出の部

科目	予算額(B)	前年度 予算額(A)	前年度 決算額	前年度予算 との比較 (A)-(B)	備考
1. 角笛会学生支援基金	1,600,000	1,600,000	0	0	
支出合計	1,600,000	1,600,000	0	0	

(備考:特別会計Ⅲの雑収入は特別会計Ⅱの雑収入内に含まれる。)

獣医学科1年生歓迎研修会(地引網)2022

1年次担任 山﨑 純、片倉 文彦 (平成20年卒)

令和4年5月7日(土)に、獣医学科1年生歓迎研修会が神奈川県藤沢市の鵠沼海岸において開催されました。当日は角笛会会長の鳥海弘先生にもご臨席いただき、1年次学生140名中118名、教職員25名(とその子どもや飼い犬たち)が朝から一同に会し、地引網などの活動を通して親睦を深めました。学生は角笛会の学生(準会員)支援として寄贈していただいた獣医学科オリジナルTシャツを皆で着用して参加しました。今年度のTシャツはミントグリーンの生地に、学生達がデザインした可愛らしい動物の絵柄や「NU VMC 2022」のロゴなどが背中や左胸にプリントされたものでした。多くの学生が地引網は初めての体験だったようで、はじめは遠慮がちに網引きをしていましたが、次第に熱を帯び、網が上がり多くの魚が捕れていることがわかると大きな歓声に包まれま

した。勢い余って海水でずぶ濡 れになる者などいましたが、そ れもよい思い出になったことで しょう。さらに、角笛会後援のも と、研修会後も学生同士が親交を 深めることができるようにとの 思いを込めた記念品をじゃんけ ん大会の勝者に進呈しました(10 名毎6種類、1位は江ノ島水族館 入場券+江ノ電1日乗車券のセッ ト)。最後には全員で海岸美化清 掃を行い、環境も心も綺麗にして 帰りました。コロナ禍が続く中で の開催でしたが、関係者全員のご 理解・ご協力により大きなケガ や病気もなく、楽しい一日となり ました。



挨拶をする鳥海弘会長と角笛会寄贈の獣医学科オリジナルTシャツを着用する新入牛



新入生集合写真

◆◆◆◆◆ 令和4年度日本大学動物病院(ANMEC)便り



角笛会会員の先生方におかれましては、平素より ANMEC の運営にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとう

新型コロナウィルスの流行がパンデミックとなってから早いことで2年半が経過しました。一時的な現象かもしれま せんが、ここ最近、感染者数が落ち着いてきた様子に安堵しています。そして、大学内の様子ですが、昨年度に続き授 業、実習は対面方式で行われ、今秋は3年ぶりとなる学部祭も予定されています。そのことから、学生達にはコロナ前 の活気が戻ってきそうです。総合参加型臨床実習(獣医学科5年生対象とした病院実習)は、例年通り10月から始まり、 ANMEC内での学生の出入りが多くなります。本来あるべき教育、研究、診療のことを改めて考えますと、新型コロナ ウイルス流行が一刻でも早く終息することを願うばかりです。

ANMEC の近況に関しまして、はじめに今年度の臨床系教員人事からご報告いたします。採用人事として、阪本裕美 先生(本学獣医学科平成14年卒業)が獣医消化器病学研究室に専任講師として、谷 浩由輝先生(本学獣医学科平成25年 卒業) が獣医放射線学研究室に助教として着任しました。両名はこれからの ANMEC での診療、臨床研究、教育に活躍 する人材ですので、どうかよろしくお願いいたします。また、昇格人事としては、近藤広孝先生(獣医病理学研究室) が専任講師から准教授になりました。さらに、総合参加型臨床実習での学生教育の充実を図るため、種子島貢司先生に 非常勤講師をお願いいたしました。有給研修医については、新規に4名を採用しました。その結果、有給研修医数は全 員で20名となりました(2年目8名、33年目6名、4年目2名)。動物病院スタッフ一同、良い診療を通じて飼い主さん や先生方に尚一層、満足していただけるような動物病院作りに努めていきますので、何卒よろしくお願いいたします。

次に病院設備につきましては、昨年12月にMRIが最新鋭の機種(3.0テスラ キヤノンメディカル製 Vantage Centurian) に更新されました。このMRIは画質に優れ、多彩な測定機能を有し、神経疾患を中心とした診断、治療に大変有効に 利用しています。さらに、放射線治療装置(LINAC)が老朽化したことにより、1月から更新工程に入ります。更新に は建屋の付帯工事も含めて、来年7月いっぱいまでかかる見通しです。この期間、放射線治療が実施出来なくなり、先 生方には大変にご迷惑をおかけしますが、来夏から稼働する最新鋭の機種により、現行機種では出来なかった照射手法 や高精度な放射線治療が可能となりますのでどうかご期待ください。

最後に来年4月に大規模な学部改組が行われます。その中で、獣医学科の姉妹学科として、獣医保健看護学科が新設 されます。新学科は愛玩動物看護師の国家資格化にともなったものです。この学科へは、坂井 学教授、伊藤大介教授、 丸山治彦准教授、住吉俊亮准教授、手島健次専任講師、阪本裕美専任講師と私が異動しますが、ANMECでの診療、教 育には変更はありません。どうか、この新学科にもご期待とご支援をよろしくお願いいたします。

末筆であり、AMECスタッフ一同、先生方の見学を歓迎しています。お近くにお越しの際には、是非、ご連絡くだ さい。

ANMEC セミナー開催報告

ANMECセミナー開催

令和4年度第1回(R4.6.24)

演題:「問題行動治療から内科・外科との橋渡しまで。行動診療

科の診療内容紹介」 小澤真希子先生

(獣医行動診療科認定医)

第2回 (R4.11.10)

演題:「臨床現場でおさえておきたい皮膚検査及び皮膚疾患」

江角真梨子先生

(日本獣医皮膚科学会認定医)

動物医科学研究センターセミナー開催報告

動物医科学研究センターセミナー開催(第156回~第163回)

第156回 (R4.1.11)

演題:「動物由来感染症:発生予測できる日を目指して!」

前田健先生

(国立感染症研究所獣医科学部長)

第157回 (R4.2.8)

演題:「リンパ節のない魚類では、どのように抗体が作られるの か?~謎を解き明かしワクチンへの応用を目指す~」

柴崎康宏先生

(本学部海洋生物資源科学科)

第**158回** (R4.3.8)

演題:「ゲノム情報を利用した防除への取り組み」

高野倫一先生

(国立研究開発法人水産研究・教育機構・水産技術研究所 病理部)

第159回(R4.6.14)

演題:「オルガノイドを用いた胃の疾患研究」

栗崎晃先生

(奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科)

第160回(R4.6.20)

演題:「英国のAnimal Welfareから考える、動物に配慮したこれ

大谷祐紀先生

(北海道大学大学院獣医学研究院 博士研究院/エジンバラ 大学獣医学部 客員博士研究院)

第161回 (R4.7.12)

演題:「新しい水族館獣医療への挑戦~沖縄美ら海水族館からの

研究発信~」 植田啓一先生

(一般財団法人 沖縄美ら島財団)

第162回 (R4.9.20)

演題:「自然免疫から見たTrypanosoma bruceiと哺乳類宿主の攻 防」

後藤芳邦先生

(帝京平成大学 薬学部薬学科 細胞機能教育部門・細胞 生化学ユニット)

第163回 (R4.10.11)

演題:「医薬品の開発・製造販売承認取得」

廣瀬和彦先生

(明治アニマルヘルス株式会社)



獣医学科の近況



【獣医師国家試験】

第73回獣医師国家試験が令和4年2月15日、2月16日にTOC有明4階にて行われました。日本大学獣医学科から125名が受験し、115名が合格しました。合格率は92.0%(全国平均88.6%)でした。

【表彰、受賞】

令和3年度の卒業生のうち、優等賞が谷澤摩理子さん、学部長賞が三枝木香苗さん、秋元尚樹さん、日本獣医師会長賞が國分達彦さん、角笛会長賞が藤野由理奈さん、渡邉亮介さん、角笛会特別賞が来栖可奈さんにそれぞれ授与されました。

【博士(獣医学)の学位取得者】

令和3年度 課程博士:白仲玉氏、犬丸瑞枝氏、吉本めぐむ氏、西谷広平氏、森田聡志氏、佐藤慶太氏、関口尚希氏、 鞆裕磨氏、田村啓氏、飯塚恵悟氏

【退 職】

本年3月をもって金山喜一教授(獣医生理学研究室)、加納塁准教授(獣医皮膚病学研究室)が退職されました。

【人事・昇格】

成田貴則先生(分子生物学研究室)、近藤広孝先生(獣医病理学研究室)、佐藤真伍先生(獣医公衆衛生学研究室)が准 教授に昇格されました。

【新任】

本年4月に橋本統教授(獣医毒性学研究室)、阪本裕美専任講師(獣医消化器病学研究室)、谷浩由輝助教(獣医放射線学研究室)、中野彩さん(獣医学科事務室)が採用されました。

■新任の先生の自己紹介 -



(獣医毒性学研究室) 橋本統教授

本年4月に新設された獣医毒性学研究室に教授として着任しました橋本 統(おさむ)です。本学獣医学科を1993年に卒業後、東京大学大学院農学生命科学研究科を修了し博士号(獣医学)を取得しました。その後、国立医薬品食品衛生研究所でのポスドクを経て、北里大学獣医学部で約20年、獣医学教育に携わりました。また、琵琶湖の辺りにある長浜バイオ大学では教授として2年間ではありますが、他分野での教育の経験を積みました。

これまでに、アクチビンEという肝臓由来のホルモン様因子が、熱を産生する褐色脂肪・ベージュ脂肪細胞を活性化してエネルギー代謝を亢進させることを発見し、このアクチビンEのシグナル伝達や抗体をもとに創薬・診断薬の開発を目指した研究を行なっています。

このような経験を生かし、日大獣医毒性学研究室の歴史を築くべく教育・研究に邁進する所存です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



(獣医消化器病学研究室) 阪本裕美専任講師

本年4月より、獣医消化器病学研究室に専任講師として着任いたしました阪本裕美と申します。 私は本学獣医学科を卒業後、臨床獣医師として2年間、東京都の動物病院に勤務した後、本学動 物病院の有給研修医として4年間研修いたしました。その後、本学大学院獣医学研究科を修了し 博士号(獣医学)を取得しました。その後も臨床獣医師として神奈川県内の動物病院に勤務しな がら、本学生物資源科学部の研究員として犬の肝疾患に伴う門脈圧亢進症の病態に関する研究に 従事してまいりました。4年前より本学動物病院の支援獣医師として、主に内科、消化器科の診 療に従事させていただきながら研究活動も継続してまいりました。今後は本研究室の坂井学教授 のもと、教育、研究、本学動物病院の診療に貢献できるよう、日々努力してまいる所存です。ま た来年度新設される獣医看護保健学科の教員として愛玩動物看護師育成のため全力を尽くしたい と思っております。皆様にはご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



(獣医放射線学研究室) 谷 浩由輝助教

本年4月に、獣医放射線学研究室の助教に着任した谷 浩由輝と申します。私は本学科卒業後に小動物臨床に従事し、その後、日本獣医生命科学大学付属動物医療センターで研修医過程を修了しました。そのタイミングで、現状では治療法がない/確立されていない犬や猫の悪性腫瘍が多いことに疑問を抱き、新しい治療選択肢を探求するために同大学の大学院博士過程に進学しました。大学院時代から大学病院(腫瘍内科)だけでなく西東京市の動物病院でも勤務医として働くことで、臨床獣医師として研鑽を積むとともに、一次診療・二次診療を問わず獣医療現場の問題点を感じ取ることができるように努力して参りました。博士課程修了後は同大学でポストドクターとして犬や猫の悪性腫瘍に対する新規治療について研究し、昨年度は鹿児島大学共同獣医学部に助教として着任しておりました。今年度からは母校で、獣医がん治療の発展と将来を担う学生達のために貢献したいと考えております。まだまだ若輩者でございますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

■令和4年度獣医学科入試状況

選抜方法	募集人員	受験者数	合格者数	競争率
A方式(第1期)	47名	624名	113名	5.5倍
A方式(第2期)	10名	424名	29名	14.6倍
N方式第1期	5 名	222名	31名	7.2倍
一般推薦(公募制)	13名	59名	19名	3.1倍
校友子女推薦(公募制)	4 名	12名	6 名	2.0倍

■学年担任(令和4年度)

- 1年次 山﨑 純教授(獣医薬理学)、片倉文彦専任講師(魚病/比較免疫学)
- 2年次 浅野和之教授(獣医外科学)、越後谷裕介専任講師(実験動物学)
- 3年次 小川健司教授(獣医伝染病学)、住吉俊亮准教授(獣医臨床繁殖学)
- 4年次 壁谷英則教授(獣医食品衛生学)、岡林 堅准教授(獣医生化学)
- 5年次 堀北哲也教授(獣医産業動物臨床学)、丸山治彦准教授(獣医臨床病理学)
- 6年次 北川勝人教授(獣医神経学)、小熊圭祐准教授(獣医伝染病学)



トピックス



月瀬東名誉教授「瑞宝小綬章」受章

本学名誉教授 月瀬 東 先生は、令和3年秋の叙勲において、「瑞宝小綬章」を受章されました。先生は昭和43年4月に 農獣医学部獣医学科に奉職されて以来、平成23年11月に定年退職されるまで、43年7カ月の長きにわたり、獣医解剖学 (獣医組織学および獣医発生学を含む)の教育・研究に係る職責を担われました。昭和56年にはドイツ連邦共和国ハノーファー獣医科大学へ日本大学海外派遣研究員として留学され、解剖学教室において教授法の研鑽を積まれ、先見性をもって教育環境の整備と教育内容の充実に専心されました。その一例として、国内に先駆けて解剖学実習室におけるホルマリン除去装置の導入を進められ、解剖学実習の質の向上を実現されました。また、研究面における肉眼断面局所解剖学的手法の確立は、『犬の断層解剖の画像』(1993年発刊)の大著として集約され、斯界で高い評価を受けられました。組織細胞化学の領域における先生のライフワークである増感中性糖検出反応やレクチン法による糖質の局在とその性質に関する解析は、糖質の存在がタンパク質や核酸と同様に生命現象を維持する上で不可欠のものであるとする現在の生物学的理解において、形態学分野の研究アプローチから先鞭をつけたものとして位置付けられます。本学部では、就職指導担当、資料館長、図書館長、及び大学院獣医学研究科獣医学専攻主任を歴任し、学部・大学院の教育研究の発展や教育の質向上に力を注がれました。学会活動でも多大な貢献をされ、日本組織細胞化学会評議員、日本獣医学会・獣医解剖分科会理事、日本獣医学会理事を務められました。社会活動においては、日本獣医師会獣医学術学会誌編集委員、私立獣医科大学協会監事、農林水産省獣医事審議会専門委員として社会に貢献されました。これらの功績に対し、月瀬先生が叙勲受章されましたこと、誠におめでとうございます。

津曲先生 日本獣医師会獣医学術賞受賞

事務局

獣医臨床繁殖学研究室 前教授 津曲茂久先生(昭和49年卒)が、令和4年11月12日に第21回 アジア獣医師会連合 (FAVA)大会、第40回 日本獣医師会獣医学術年次大会(令和4年度)において、日本獣医師会獣医学術賞 産業動物部門

獣医学術功労賞を受賞しま した。

津曲先生の長年にわたる「牛、豚の生産性向上のための繁殖生理および繁殖障害に関する研究」が、日本獣医師会獣医学術功績者選考委員会において、極めて優秀と認められたことによるものです。





大学・学部・校友会(角笛会関係者)

令和3年11月13日 鳥海 弘氏(昭和50年卒)が生物資源科学部校友会長に就任

令和3年12月14日 丸山総一氏(昭和57年卒)が生物資源科学部長に就任 令和4年7月1日 酒井健夫氏(昭和41年卒)が日本大学学長に就任

令和4年7月15日 木村順平氏(昭和55年卒)が日本大学理事に就任

大角笛会

11月11日~13日に福岡県福岡市にて開催された第21回 アジア獣医師会連合(FAVA)大会、第40回 日本獣医師会獣医学術年次大会(令和4年度)に合わせ、県域・学年を越えた同窓会「大角笛会」が開催されました。

日時:令和4年11月11日(金) 会場:ソラリア西鉄ホテル福岡

参加教員:酒井健夫学長、

丸山総一学部長、森友忠昭学科主任、

中山智宏教授、浅野和之教授、 鯉江洋教授、北川勝人教授、 枝村一弥教授、岡林堅准教授



挨拶:草場治雄氏(角笛会福岡県支部長代行、福岡県獣医師会会長:昭和47卒)



来賓挨拶:鳥海弘氏 (角笛会会長:昭和50年卒)



来賓挨拶:酒井健夫氏 (日本大学 学長:昭和41年卒)



酒井健夫学長へ花束贈呈



来賓挨拶:丸山総一氏(日本大学生物資源科学部学部長:昭和57年卒)



乾杯挨拶:野原たかし氏 (福岡県議会議員:昭和56年卒)



挨拶:蔵内勇夫氏(角笛会福岡県支部長、 日本獣医師会会長:昭和54年卒)



丸山総一学部長へ花束贈呈



会場風景

角笛会関連記事(支部だより)

■東北海道支部だより -

令和4年8月27日(土)、「北海道新聞釧路支社5Fホール」にて開催。

派遣教員:岡林 堅

新型コロナウイルス感染 症感染防止のため、会場入 口で検温、手指消毒を行 い、マスク着用の上で開催 した。



■埼玉県支部だより

令和4年10月2日(日)、「埼玉会館」 にて開催。

派遣教員:丸山総一









角笛会関連記事(同期会だより)



■昭和49年3月卒業生同窓会だより

2022年11月12日(土)、 ホテルアソシア静岡にて開催。

新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で、出席者は18名となりましたが、延び延びになっていた同窓会を開催しました。

月日の経つのは早く、卒業から約50年、学生当時の面影は(?)ですが、いろいろな話に花をさかせました。

次回、同窓会での再会を願っ てお開きとなりました。



事務局よりお願い

「支部だより」「同期会だより」を充実させるため、総会・懇親会で撮影した写真と文章をお送りください。各支部の様子を写真付きで紹介させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いします。

支部総会に現役教員を派遣します。ご要望がありましたら、事務局までご相談ください。



計

報



佐藤敬先生のご逝去を悼む

事務局

佐藤敬先生(獣医外科学研究室 元教授) (98歳) におかれましては、令和4年4月2日にご逝去されました。ここにご 冥福をお祈りし、謹んでお知らせ申し上げます。なお、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、すでにご家族で密葬をお 済ませになられました。



角笛会関連記事校友だより)



■わが国の酪農と8代将軍徳川吉宗 -

青木蓉冶(昭和36年卒)

1 酪農用語の意味

●広辞苑

酪農とは: 『酪』は牛などを飼育して乳をしぼったり、それを加工し、バターやチーズ乳製品などを作ったりする農業を営むという。

●マイペデイア百科事典

酪農とは:乳牛を飼育し、牛乳および乳製品の生産を行う農業経営をいう。

●食品衛生法及び同法省令(昭和26年厚生省令第52号)

牛乳とは:定義で「直接飲用に供する目的又はこれを原料とした食品の製造若しくは加工の 用に供する目的で販売する牛の乳」の生乳を牛乳といい、成分はエネルギー:280 kJ(67 kcal)・炭水化物:4.8 g・脂肪:3.8 g・飽和脂肪酸:2.33 g)と定め、脂肪分調整の乳汁を低脂肪牛乳商品に「牛乳」の名をつけることができる。

2 フラスコ―洞窟壁画の牛

後期旧石器時代の2万年前クロマニョン人が、ラスコー洞窟(フランスの西南部ドルドーニュ県・南東の丘に位置する)の壁面に、雄牛が群れのリーダーで生活している様子や、多くの馬・山羊・羊・鹿・カモシカ・人間、これらが幾何学模様の刻線で描かれ、人の手形には赤顔料吹き付けた画を辞典で見ることができます。(出典:フリー百科事典『ウィキペディア』)

3 古代遺跡にみる牛骨

狩猟や漁撈生活を中心の縄文末期(500年)から弥生初期100年頃に大陸から南方系の牛が朝鮮を経由して、北九州に始まる稲作文化に併せて牛も移動した時代の初頭、地方集落長の権力象徴として数少ない牛を所有し、集落の民は、この牛を農耕用で使用していたと思われる牛骨が、長崎県壱岐市勝本町東触天ケ原「串山ミルメ浦遺跡」や長崎県五島市「大浜遺跡」、三重県桑名市「志知遺跡」、神奈川県逗子「池子遺跡」などで出土しています。

時は流れて、7世紀中期以降に東京湾を埋め立て造成した「鉄砲洲」と称される一画は、武家下屋敷地で、この一画を外国人居留地(聖路加病院在の明石町一帯)として、明治元年11月19日付で東京市は設定しています。その後1870年(明治3)居留地指定は廃止され、この地から外国人の生活用品や調理切断痕牛骨が出土。(平成18年東京都中央区考古資料)

4 国内飼育牛の種類 (全国肉用牛進行基金協会;資料引用)

- * 在来種
- (1)口之島牛:・鹿児島県のトカラ列島の野生化牛
- (2) 見島牛:山口県見島で飼養されています。
- * 肉用種牛の4種類は外国種との交配種
- (1) 黒毛和種:交配(外国種のシンメタール、エアシャー、ブラウンスイス)

「昭和19年日本固有種認定、全国90%で飼育」

(2) 褐毛和種:交配(熊本・高知赤牛にシンメタール、朝鮮牛など)

「昭和19年日本固有種認定、黒毛和種に次いで飼育頭数が多い」

(3)無角和種:交配(山口原産在来種の見島牛にアバデインガス)

「昭和19年日本固有種認定」

(4)日本短角種:交配(東北地方原産の南部牛にショートホン)

「昭和32年日本固有種認定」

* 乳用種飼育5種

(1)ホルスタイン種:オランダからドイツのホルスタイン地方原産 明治時代から輸入、国内飼育の99%を飼育、年間1頭平均乳量8,000 kg

- (2)ジャージー種:イギリスのジャージー島原産、国内8,000頭、上記(1)に次いで多い乳牛、乳脂肪率5%と高くバターの原料に最適
- (3)エアーシャー種:イギリス・スコットランド地方原産、明治11年札幌に導入したが乳量上記(1)より低く定着していない。年間1頭1頭平均乳量4,500 kg、乳蛋白質率3.4%と高くチーズ原料に最適
- (4) ガンジー種:イギリス・ガンジー島原産、体系はジャージー種に類似、おとなしい性格、飼育は少数。
- (5)ブラウンスイス種:スイス原産で乳用種にアメリカで改良、1945年以降にアメリカより輸入、飼育頭数増加傾向、乳蛋白質率3.4%と高くチーズ原料に最適

注:生乳生産に問題が発生すると肉用に転用しています。なお乳用種改良目的の以外の雄牛は肉用牛飼育とされています。

5 酪農発祥の嶺岡牧場

嶺岡牧場は、昭和38年5月に【日本酪農発祥地】千葉県史跡指定を受け、この表示が牛乳研究所の玄関前に設置されています。古来、千葉県安房一帯を所領地とする「里見氏」が1500年頃、軍馬育成の目的で、嶺岡山地の尾根と斜面に広がる東西約15 km、面積約1750 ha(≒175,000 m²)の平地に馬700頭が放牧されていたと、1797年頃の史実にあります。この地より江戸に至る距離160 kmと近く、1614年(慶長19)関ヶ原合戦以降、国内合戦もない100年間が続く、1721年(亨保6)に野馬奉行が、牧を検分したところ馬体小型化の馬を多く見受けたので、翌年に馬産地の南部藩や仙台藩か

牧場は明治維新後に新政府に引き継がれ、徳川幕府以来の馬飼育より乳牛育成に移行したことで、杉林で茂る牧場地域一帯は近代酪農地となっていますが、牧場は山地に位置するため市街化の改変は免れています。今日、幕府直轄の千葉県牧跡地「小金牧・佐倉牧」は東京のベットタウンの市街化しています。なお幕府3牧跡地調査で、馬放牧時代の馬捕り場、野馬土手(馬が逃げ逃げないように石積み土手壁)、馬の水飲み場、木戸跡(入り口)など数多くの遺構が残っています。

6 吉宗8代将軍は牛乳産業貢献者

ら馬体改良種馬を購入しています。

吉宗は徳川御三家のひとつ紀州(和歌山)藩の第2代藩主「光貞」4男で生まれ、兄たち3人が相次ぐ死亡で8代将軍職に就任すると、貴族趣味を嫌う彼は、産業の開発に役立つ実学の奨励と科学技術知識を得るために、漢訳洋書輸入の制限緩和とヨーロッパの知識やオランダ語を青木昆陽や野呂元丈に習得させ、彼らが蘭学先駆功績者として名前を歴史教科書に残しています。

彼の推進した一連政策うち、乳産業の発端は、1727年(亨保12)オランダから馬改良目的に併せインド産牛(ゼブー種) 3頭(雄1頭、雌2頭)輸入が、21世紀至る乳業産業進展に貢献していることを、吉宗予測しない偶然の出来事「是れ婢の 憶測、敢て信ずるに足らず」(後漢書-李通伝)と、彼岸の世から感慨深くみていると思います。

ゼブー種牛の特徴は、ラクダのようなコブ、長く垂れた耳、白い毛色の珍しい種類で、後年、全て牛疫死亡で、再輸入の同種3頭を観察「祝祭日除く月曜日休」ができます。

白牛乳汁に砂糖を加え煮詰めたキャラメル類似の「酪」は、将軍の世継ぎづくり健康食品に供されています。効用は、強壮、疲労回復、労咳(結核)や解熱薬用で、特に傷薬「御生薬」は製薬用白牛に「よもぎ」飼料を2週間与え、糞の黒焼きで製薬しています。

「編者の祖母(幕末生まれ)が、擦り傷血止め、下痢止め用で木炭粉を使ったので、黒焼き牛糞も同様に効能があるのでは?」

好奇心の強い吉宗の出来事に、象やラクダを輸入し閲覧後、町民に払い下げた記録が残されています。

7 「酪 | 事業のはじまり

白牛到来から64年後、1792年(寛政4年)、約70頭に繁殖したことで、1793年(寛政5年)霞が関の野馬方役所(のまがたやくしょ)に牛小屋を設置し、母牛と子牛を一緒に10頭を取り寄せて飼育し、この地で酪製薬所を設け「酪」の製造を始めています。

1796年(寛政8)頃、牛数も増え乳量も増加すると、日本橋「玉屋」店で「酪」製造を任せて、一匁(3.75 g)が400文(1文≒32.5円)値段の高価品ですが、江戸庶民も、21世紀の世を生きる人々と同様にスタミナ健康食品の期待で営業は盛況したようです。

白牛の搾乳量が減ると嶺岡牧に送り返し、乳のでる牛を連れてくる道中5泊6日間の牛餌、休憩場所、宿泊場所など 確保のため「送り状」を発行しています。

江戸の白牛病気治療は幕府御用の芝車町 (港区)の牛医者に命じて2両(1両≒10万円)を謝礼で渡しています。医者は田安屋敷や伊奈半左エ門屋敷で牛車牽引役牛2頭の治療で解熱・発汗作用の生気散薬や鍼灸・朝鮮人参疲労回復特効薬の薬代2両を受けています。(江戸の牛:都史記要32)

8 平安初期の「酪」「酥(そ)」は和牛でつくられた。

平安初期の記録に、百済(くだら:現在の韓国)の帰化人の福常(ふくじょう)が、孝徳天(644~654年)に牛乳を加工した「蘇(そ)」を献上したところ天皇は喜び、和薬使主(やまとのくすりのおみ)の姓と乳長上(ちちおさのかみ)の職を授けた記録があります。

この時代、貴族や社寺は私的所有の領地や荘園を広げ、馬や牛を放牧飼育し、馬は競馬(うまくらべ)や英国のポロ類似競技で使用し、牛は貴族乗用牛車の牽引役牛に使い、役牛の僅かな乳汁を煮てつくる「酪」を天皇や貴族は「醍醐」として食しています。

「醍醐味(だいごみ)」の訳は「深い味わいや楽しみを意味する最高級の乳製品で、仏教では五味の最上のものをいう」と索引できます。

675年(天武4年)4月、天武天皇は「肉食禁止令の詔」で、牛、馬、犬、猿、鶏の五畜を対象にしています。仏教肉食禁止用語で「五畜」は「鶏、羊、牛、馬、豚」とも「牛、羊、鶏、豚、犬」の対象動物にしています。

天武天皇「肉食禁止令の詔」の理由は、「牛は田畑を耕す」「馬は人を乗せて働く」「犬は番「鶏は時を知らせる」「猿は人間に似ている」としています。禁食で「酪」や「酥」を食する生活風習は廃れますが、貴族は内緒で乳汁や酥を薬食にしていたようです。

武士の時代に移ると官牧(牧場)の荘園で和牛飼育から軍馬へと変わり、その後600年間、史実から「酥や牛乳」の登場が消失しています。しかし、1871年(明治4)明治天皇が牛肉を食べ「肉食禁止令」を解禁したとする、禁止令破棄の詔勅記録をみることができません。

9 牛疫感染で吉宗由来の白牛血統は絶えた

明治政府管理下に置かれた1869年(明治2)、馬387頭、牛122頭を飼育していました。吉宗由来の白牛は1873年(明治6)の牛疫流行発生で268頭いた牛は24頭と、その後の死亡で血統は絶えていますが、後年、有志による嶺岡牧社設立で南部種雌牛100頭余りと馬購入で繁殖・改良を進め頭数は増やしています。「6:記述のとおり3頭観察できます」

(1) 牛疫(独: Rinderpest) は2011年に撲滅宣言発表

2011年に牛疫は、人間以外の動物で初めてFAO(Food and Agriculture Organization of the United Nations) 国連食糧農業機関の根絶宣言ありました。

1980年 WHO (World Health Organization) 世界保健機関の天然痘ウイルス根絶宣言についで2例目です。

牛疫ウイルスの感染は家畜伝染病予防法に定める法定伝染病で、対象動物はウシ、水牛・羊・山羊・豚・鹿・猪の偶蹄目動物が該当します。

なお感染症で牛肺疫・口蹄疫・アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ家禽は殺処分義務が課せられ、獣医師が「生 殺与奪」権利と使命の重責を担っています。

(2) 牛疫ウイルスの起源は中央アジア?

パラミクソウイルス科 (Family Paramyxoviridae) のモノネガウイルス目に属するウイルスの分類に属します。【感染症学を引用】ウイルスの侵入経路は牛移動とともにヨーロッパから中国を経て、我が国は被害を受けています。わが国は江戸時代初期から牛疫発生の記録がありますが、本格的に問題となった明治維新後に朝鮮半島経由のウイルスに起因とされています。1880年代にインド経由したウイルス汚染はアフリカ大陸全土に拡大し、牛や水牛の9割の死亡記録があります。18世紀のヨーロッパ牛疫対策一環で、フランスや各国に獣医学校が設立されています。

10 横浜で牛乳販売開始

「酪」製造の始まりから100年経過の1863年、千葉県長生郡白子町出身の前田留吉が20才の時にオランダ人に雇われ、乳牛の飼育管理や搾乳技術、牛乳処理技術を習得したのち、1863年(文久3)横浜に日本最初の牛乳搾取所を設置しています。

彼は明治に入って、大蔵省通商司の「御厩(おうまや)」や「築地牛馬会社」に招聘されて乳牛管理を行っています。彼は 1870年(明治3)東京市芝(港区)で牛乳搾取所を開設し、ブリキ缶入り1合(1.8 mL)を4銭で販売すると共に乳牛(短角種)の輸入をするなど明治時代の酪農指導者で活躍しています。

11 北海道酪農の誕生

「北海道酪農の発端」は1854年(安政元年)、日米和親条約で函館(旧箱館)開港し、幕府は再び蝦夷地(北海道)を支配下におき、外国船が求める燃料・水・牛乳・牛肉の供給のため、軍川付近(北海道亀田郡七飯町)に牛牧場開設が北海道酪農の初期とされています。

ところが、軍川地区はヒグマが多く出没し、電気牧柵のない時代のため、子牛が相次いでクマが餌にすることで牧場経営の採算が合わなく閉鎖し、残された乳牛は峠下の人々に払い下げられましたが、牛乳や牛肉を食する風習文化のない時代のため農耕用目的に飼育しています。

2022年8月4日付で北海道標茶町や厚岸町の牧場で3年前から乳牛63頭を300kgの雄ヒグマが襲い餌にして5,000万円被害の報道されています。

明治に至り西洋文化生活スタイルに変容する中、食生活で牛乳需要が高まり、1875年(明治8年)に開拓使の酪農試験 農場「七重官園」で本格的なチーズ試作が初めて行われ、明治9年、明治天皇奥羽巡幸の際に七重官園で牛乳やチーズ、 アイスクリームを昼食に供した記録が残されています。1876年に明治時代の実業家で政治家の柳田藤吉氏が、北海道根 室に国内初の近代的な大規模牧場「東梅牧場」開設が北海道酪農の礎とされています。

根室は北海道の道東の最東端の根釧台地は火山灰に覆われた広い大地は保水力に乏しく稲作や畑作に適しませんが、 しかしこの台地は牛が好む低温で冷涼な気候のため夏でも気温が低く涼しいので、高温になると腐敗しやすい牛乳や乳 製品には適した風土のメリットがあります。

北海道は、恵まれた土地風土の環境を活かし、専業的に大規模な経営を主体とする酪農を展開し、1戸当たりの乳牛 飼養頭数は140.6頭と都府県平均の2.3倍、肉牛飼養頭数は197.1頭と、都府県平均の4.6倍で、生乳生産量は409万トン(全 国の55.6%)、牛枝肉生産量は9万トン(全国19.5%)で、各全国1位を占めていいます。(令和2年度農林水産省畜産統計)

12 明治初期の牛乳は高価な飲み物

今日、学校給食や大衆浴場、スーパーマーケットで100円~300円で購入できる安価な牛乳ですが、1858年に米国総領事ハリス氏が病に伏したときに牛乳を栄養剤として購入した牛乳1.76L(9合8勺)の代金は1両(約10万円)以上で、

米3俵 (180 kg) と同等の高価なものでした。牛乳は、明治・大正から昭和初期まで栄養補給の飲み物でガラス瓶ドリンク剤サイズ 5勺 (90 mL)、1合 (180 mL) で「薬」として販売する高値な飲み物です。

13 近代専業乳業経営の始まりは

明治時代に欧米よりホルスタイン種乳牛の導入で本格的な乳製品生産と肉食が開始され、第1次世界大戦(1914年7月)前後、農村の不況、東北地方は凶作対策で牛飼養と排泄物堆肥農耕の【有畜農業】が普及しています。

第2次大戦(1939~1945年)で衰退した酪農は、戦後の乳製品の需要増大と酪農振興法制定政策と栄養改善促進政策で乳製品需要は急速に進展していますが、終戦後の食糧不足で国民は飢餓による栄養失調で痩せ細るなか、米国より脱脂粉乳を含む食糧支援のララ物資提供を経て、1954年の学校給食法制定で乳製品は社会に広く普及したことが、近年の本格的な乳業経営の再興に貢献したことが、85歳を超える超高齢者が達者で生る源流は、ララ物資「脱脂粉乳」のおかげと感謝しています。

14 住宅進出で都市酪農は肉牛飼育兼営増加

乳牛は牛乳消費と運搬の利便性の観点から都市近郊の舎飼と濃厚飼料による飼養経営が多く行われていましたが、1960年代に牛舎周囲地が住宅地となり、これに伴う排泄物臭気の苦情が増加したため飼育戸数減少化で、多頭飼養経営が進められていす。1970年代に牛乳生産過剰で乳価下降で生産抑制となり、1980年代以降は牛肉貿易自由化に直面した飼養家の多くに酪農と肉牛肥育の兼営形態の移行がみられますが、2022年(令和4)は、米国熱波気候変動でトウモロコシや麦の不作で、輸入飼料高騰と事業経営の困難が酪農家に及んでいます。

15 都史紀要32に記載の江戸の役牛

江戸時代、牛の主産地は西国(九州・関西)が中心というのが通説ですが、南部・山形・佐渡・信濃・安房でも飼育され、この地より江戸に持ち込まれる役牛は主に雄牛で博労が1頭約3~6両で仕入れて雌牛は使役に使用していません。当時の牛の体高は121~152 cm、毛色は赤・黒・鼈甲色が多く、大型牛は信濃・越後で、千葉県房総・神奈川三浦半島の牛は小型が多く荷車用に4歳頃まで5~6年間使用した牛は、「古牛」として近郊農家に払い下げていますが、多くは家康出身地の静岡市中安西町に路銀を添えて払い下げています。

市中の牛馬は、武家屋敷内の馬、町方で運送に従事する牛馬、近郊から駄賃稼ぎの牛馬、これらを合計すると数千頭もいたので病死や事故死によるものも多かったと思います。その際の処理経費は、将軍家は1頭2両2分・幕府馬は1両1分・諸大名は寸志で支払っています。

馬や役牛が死亡(落牛・斃死)した際、処理に当っては浅草(台東区山谷地区)「弾左衛門」が、主に務めていますが、 芝車町(港区)荷役牛の小屋では、1年間に5~6頭が死亡するため、「八百屋お七」処刑場で有名な「鈴ケ森」(品川区南 大井2丁目)付近)に埋めています。

江戸市中の荷役運送業牛は飼育穀物経費の高騰で、大工八五郎が造った人力「大八」荷車が、市中運送の主役になっています。黒船開港以降、外国人用の食肉は港区白金の食肉加工所で、主に雌牛の柔らかい需要に応じていましたが雌牛の購入も困難となり、値段も5倍に高騰したことで雄役牛を食肉用に供したようです。

16 編纂のきっかけ

三軒茶屋(通称校舎の門標「日本大学農獣医学部」でした。危機管理学部に建て替えられた現在、「日本大学農獣医学部」の緑青色門標、いずこに保存されている?

学舎は校庭を囲み、木造とコンクリート建に農学部・獣医学部・水産学部と混在していました。

昭和33年2年次の夏季休暇。自主的に千葉県木更津市内の生乳中間集荷所の所属獣医師の指導で、午前は冷凍タンク車に酪農家が持ち込む乳質検査実習。午後は、検査不合格乳牛の飼養家訪問で、日常の飼養管理の問診・診断・治療の見学を受けました。

30日間の自主研修終了も近い、ある日、獣医師のバイク後席で土埃を吸いながら山あいを走り「嶺岡牧場」に案内され、牧場が酪農事業の始まりと聴き見学をしました。当時、心に深く感じることもなく大脳皮質の奥深くに思い出が沈下していましたが、その時の思い出の記憶が、ふとよみがえたので、趣味のドライブを兼ねて、思い出探しの編纂レポートです。

「史実の誤り・誤脱字」は、諸氏の寛大な気持ちで笑読を願っています。 拝読、「ありがとうございます」おつかれさまです。

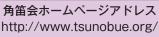
参考引用文献

- ●歴史読本「徳川15代までの将軍実記 ●食品衛生法 ●歴史辞典●光文社「江戸300藩最後の藩主」八幡和郎著 ●文中に記載済み
- ●注:「牧は柵なし放牧、牧場は囲い飼育です。本文では文書作成の流れで「牧」や「牧場」で記述しています」

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866 日本大学生物資源科学部獣医学科教員 R3.4.1 現在 電話番号:0466-84-3800(代表) 【獣医解剖学研究室】 6号館 教 授 五味 浩司 【獣医衛生学研究室】 動物医科学研究センター 准教授 安井 禎 教 授 伊藤 琢也 教 髙橋 直紀 助 教 瀬川 太雄 肋 【獣医病理学研究室】 6号館 教 授 渋谷 久 【魚病/比較免疫学研究室】 動物医科学研究センター 広孝 教 授 森友 忠昭 准教授 近藤 【獣医薬理学研究室】 6号館 教 授 山﨑 専任講師 片倉 文彦 助 教 山口 卓哉 【獣医伝染病学研究室】 動物医科学研究センター 【獣医微生物学研究室】 6号館 教 授遠矢幸伸 教 授 小川 健司 助 教 木庭 准教授 小熊 圭祐 猟達 【獣医生理学研究室】 【実験動物学研究室】 6号館 教 授 鯉江 洋 動物医科学研究センター 【獣医生化学研究室】 6号館 准教授 岡林 臤 教 授 佐藤 雪太 【分子生物学研究室】 6号館 准教授 成田 貴則 専任講師 越後谷裕介 【医動物学研究室】 6 号館 教 授 松本 淳 【獣医公衆衛生学研究室】 動物医科学研究センター 助 教 増田 絢 教 授 丸山 総一 【獣医臨床繁殖学研究室】 9号館 教 授 大滝 忠利 准教授 佐藤 真伍 准教授 住吉 俊亭 【獣医食品衛生学研究室】 動物医科学研究センター 【獣医外科学研究室】 9号館 教 授 浅野 教 授 壁谷 和之 教 授 枝村 一弥 【獣医麻酔•呼吸器学研究室】病院、教授、山谷、吉樹 専任講師 関 真美子 専任講師 手島 健次 【獣医神経病学研究室】 【獣医臨床病理学研究室】 9 号館 特任教授 鎌田 病院教授北川 勝人 寬 准教授 丸山 治彦 教 授 伊藤 大介 【獣医産業動物臨床学研究室】動物医科学研究センター 【獣医内科学研究室】 9号館 教 授 亘 敏広 【獣医消化器病学研究室】 9号館 教 授 坂井 教 授 堀北 哲也 専任講師 阪本 裕美 専任講師 大野真美子 【獣医放射線学研究室】 【獣医毒性学研究室】 動物医科学研究センター 9号館 教 授 中山 智宏 専任講師 髙橋 朋子 教 授 橋本 教 合屋征二郎 助 助 教 谷 浩由輝

*角笛会のホームページは随時、更新されております。角笛会関係の行事予定、支部同窓会からのお知らせ、また最新の角笛会報など 多くの情報を発信しております。さらにホームページから新住所の登録もできます。是非、お立ち寄りください。







日本大学獣医学科ホームページアドレス https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~vethome/



今年も新型コロナウイルス感染症の流行は続きましたが、大学ではソーシャルディスタンスを保ちつつ対面授業および実習を行ってきました。また、今年度は2年間中止となっていた新入生歓迎会が鵠沼海岸で開催され、学部祭も開催されました。少しずつではありますが、以前の大学生活に戻りつつあります。

角笛会会報にご意見、ご希望がございましたら獣医産業動物臨床学研究室の大野 (oono. mami ko@ni hon-u. ac. jp) あるいは角笛会事務局 (tsunobue3@gmail.com) までご連絡 ください。

今後とも、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

令和4年11月 大野 真美子(平成20年卒)